

<美ヶ原>

8 / 27

※ 注意指導等：0人

・ツリガネニンジン（釣鐘人参）はキキョウ科の植物で樺太から九州まで広く分布します。薄紫色が多いようですが、これは珍しい白花です。



・マイヅルソウ（舞鶴草）はスズランの仲間で北アメリカ北西部にも分布しています。実は、最初表面に黄土色がついていますが、熟すると真っ赤になります。



・シソ科のナギナタコウジュ（薙刀香薷）は北海道から九州に広く分布する一年生草本です。アイヌ民族は、この植物を乾燥させてお茶のように飲用していたそうです。



・ワレモコウはバラ科の多年草植物で、吾木香、我毛紅または我毛香など漢字表記は様々で一般的には吾亦紅と書きます。源氏物語にも登場する植物です。



・アズマヒキガエルは東北地方から島根県東部まで分布するヒキガエルの仲間では有毒種です。このカエルが、ガマの油のガマです。分泌物には薬効があるそうです。



8 / 2 1

※ 注意指導等（禁止区域への侵入）：1人

・スタッフが、グリーロープに付ける立入禁止看板を設置している様子です。美ヶ原の客はマナーが良く、ゴミはほとんど落ちていませんが、立ち入り禁止区域に侵入する方が時々いますので、ご協力をお願いします。



・本州から九州に分布するノコンギク（野紺菊）は、ごくありふれた野菊とか、もっとも普通の野菊などと紹介されています。美ヶ原のノコンギクは、美しく咲いています。この植物は、生育範囲が幅広く、いろんな環境の中でたくましく生きる植物です。



8 / 14

※ 注意指導等（無許可採取）：3人

・日本三大有毒植物のヤマトリカブト（山鳥兜）です。毒性が非常に強く、少量でも死に至ることがあるので注意が必要です。この時期は、各地でたくさん咲いています。



・オヤマリンドウ（御山竜胆）は、中部地方から北の亜高山帯等に生育する多年草です。エゾリンドウとよく間違えられる花です。



・トモエシオガマ（巴塩竈）は、半寄生植物の一種です。寄生植物は、全寄生植物と半寄生植物に分かれ、全寄生植物は、光合成を行わずすべての栄養を寄生に頼っているのに対して、半寄生植物は、寄生に頼るだけでなく光合成も行います。



・マツムシソウ（松虫草）は、北海道から九州まで広く分布し、夏から秋にかけて長い期間花が咲きます。名前の由来は、松虫が鳴く頃に咲くからというものと花の終わりが仏具の松虫に似ているからの二つの説があるそうです。



・ミヤマモジズリ（深山文字摺）の色には見えませんが、この花の咲き始めは薄紫色で、だんだん濃いピンク色に変わっていきます。



・真っ赤の実、ゴゼンタチバナ（御前橘）の実です。和名の「御前橘」は、白山の御前峰に由来しているそうです。



8 / 8

※ 注意指導等（禁止区域への侵入）：1人

・エゾカワラナデシコ（蝦夷河原撫子）は、本州中部以北から北海道、ユーラシア中部以北に分布します。ナデシコ（撫でし子）の名前の由来は、花を子供に見立てて撫でたくなるほど可愛い花という説があります。



・かつて美ヶ原は、一面ヤナギラン（柳蘭）のお花畑でしたが、ニホンジカの食害とササによる被圧等が原因で、今では、電気柵等の囲われた中でしか開花を確認することが難しい状況となっています。写真は「思い出の丘」の電気柵の中です。

